

昭和一九、八、八

電報

八五〇五〇〇受付  
〇八三〇著  
八七一〇一五提出

次長宛

球部隊參謀長

球參電第一〇六九號(電註、一部未著再電要求中ナルモ配布ス)

一五日十二時五十分德之島伊仙沖合ニ於テ潜水艦ノ雷聲ヲ受ケ官古

丸沈没ス、鹿兒島出帆時ニ於ケル乗船者左ノ如シ

船通通信第二大隊第二中隊五一名

(2)帝國防衛通信施設部特別工作隊員一二七名

(電註、以下一部未著)

秘

第六三四〇號

外國放送傍受情報

(第四班分室)  
昭和一九・七・九

送

サイパン方面情報 (第五四號)

◎日本軍反撃ニ出デ退サルト (樂港・七月九日八時)

最新報道ニ依レバサイパン島ノ日本軍部隊ハ西岸ノ米軍ニ對シテ反撃ニ出デ米軍線ヘ二千碼侵入シテ來タガ米軍ハ日本軍ニ對シテ千百名ヲ出サシメ後程コレヲ退シタ

送 放 渡 短

電 報

昭和一九・八・八

次 長 宛

ハハロ一三〇〇發  
ハハロ一三〇〇受付  
ハハロ一三〇〇提出

球 部 隊 參 謀 長

球參電第一〇七八號

參電第五八三號返(電註、大東島強化ノ件)

軍ハ新ニ増加セラルベキ歩兵ニ大隊、野戰電信隊ヲ「ちうりつぶ」

「めづき」地區ニ投入スルヲ可トスル意向ナリ、其ノ理由左ノ如シ

「ばれいし上」全部ハ既ニ兵力充實シ概ネ所望ノ如ク強化セラレタリ

「ちうりつぶ」

ノ如ク「かんだ」主力及「しぐれ」三ノ外更ニ歩兵二大隊ヲ要スルヲ以テ右兵力ハ「ねだこく」ノ分剛使用スル代リニ「ちうりつぶ」

ち

三 獨立混成第十五聯隊ハ既ニ獨立混成第四十四旅團長ノ掌握ニ入  
リ聯隊ノ團結ヲ漸ク成ラントスル時ヲ以テ今之ヲ分制スルハ遺  
憾ナリ

四 獨立混成第十五聯隊ハ伊江島及之ニ關連スル方面ニ於ケル作戰  
地域守備ノ任務ヲ受ケ著々障地強化中

而モ獨立混成第四十四旅團主力ノ再建部隊ハ九月上旬ニアラザ  
レバ現地ニ到着スル見込ナシ

五 一設ニ建制分制ハ戦力ヲ低下スルコト大ナルヲ以テ極力之ヲ避  
ケラレ度意尙アリ

(終)

日誌用

電報

次長宛

球參電第一〇八三號

球參電第一〇三三號

二部部隊ヲ軍ノ企圖ニ基キ自由ニ展開配置  
致シ度件

球參電第一〇三三號(電話八月四日配布)(軍ニ砲兵

司令部實現ノ件)ヲ以テ照會ノ件至急承リ度

尚砲兵司令部(現地情報機關ヲ含ム)ハ從來ノ

島嶼防禦トハ趣ヲ異ニスル實質相ヲ賢察セラレ

是非早急ニ實現セラレ度 更ニ申請ス

(終)

昭和 一九二八年  
八月二日  
八月三日  
八月四日  
八月五日  
八月六日  
八月七日  
八月八日  
八月九日  
八月十日  
八月十一日  
八月十二日  
八月十三日  
八月十四日  
八月十五日  
八月十六日  
八月十七日  
八月十八日  
八月十九日  
八月二十日  
八月二十一日  
八月二十二日  
八月二十三日  
八月二十四日  
八月二十五日  
八月二十六日  
八月二十七日  
八月二十八日  
八月二十九日  
八月三十日

電報

次長宛

球参電第一〇八八號

渡邊閣下貴部着任ニ際シ上奏セシメヨルルヤ準  
備ノ都合モアリ承知致シ度

昭和五、八、八

八、八、一六〇〇 發  
八、八、一六三〇 受付

球部隊参謀長

(終)

日誌用

電報

次長宛

球部第九五號

球部隊參謀長

昭和一九、八、十  
八二〇三三〇發  
八二〇七三〇受付  
〇九三三三提出

一 七日二十二時三十分德之島前西約一五浬ニ於テ第十一標丸（船舶工兵第一聯隊第十九中隊）敵潜水艦ノ雷撃ヲ受テ沈没ス

二 溺船員九三名（兵一八、船員七五）中兵六船員一二德之島西岸小島ニ漂着ス、内重傷二名他ハ輕傷ナリ。尙目下現場搜索中

(終)

電 報

八六〇五〇〇發  
八九一五〇〇受付  
八二〇一〇〇提出

昭和一九、八、一〇

球 部 隊 參 謀 長

通電先 次長、防廳、西郡軍、船司、第一船總司

球參電第一〇六九號（電註、八月八日配布欠ノ分）

- (3) 第三十二軍橋率領者五名
  - (4) 獨立混成第二十一聯隊應召者九名
  - (5) 民間側三四二名
- 二現在送ニ判明セル收容者一一一名

(終)



電報

通電先次長 臺灣軍

球參電第一〇三一號

球部隊參謀長

昭和一九八〇

八三一九〇發  
八九二四着  
八九三三〇發  
八九三三〇發

逐次到着シツアル軍直部隊ハ指定揚陸地ヨリ前  
亦配置トナルベキニ付當軍任務達成ノ方針並ニ現  
地狀況ニ基キ船舶關係之ヲ許セ其一部ヲ變  
更シテ可ナリヤ  
(終)



昭和一九、八、一〇

電報

八一〇 一二三〇 發  
一三四〇 著 八一〇 一四一五 交付  
一五一五 送 出

次長 苑

球部 隊 參 謀 長

球參電第一二四號

本十日當地ニ入港セル百古島揚陸隊豫定ノ獨立歩兵隊二百七十一大隊  
ハ該ノ戰鬪序若クハ指揮下ニ入ルヤ未ダ何等ノ命令ニ接セス、所屬  
承り度

(抄)

日

至急電報

次長宛

球部借債第一〇〇號

二時現在ニ至ルモ當軍管區内暴狀ナシ

八一四〇〇〇

球部隊參謀長

昭和一九、八、一一

332

(終)

陸軍省

至急電報

1101100 發  
1110000 受  
1110000 提出

昭和一九、八、一一

球 部 隊 參 謀 長

通電先 次長、運輸通信長官、臺灣軍、防衛、西軍、船司、第一船輪司、線下

球 參 情 電 第九八號

一九日四時十五分德之島西北方ニ於テ澎湖丸(二三三二噸所屬高雄  
警備府)敵潜水艦ノ攻撃ヲ受テ沈没ス  
乗船者六四、死亡者二、其ノ他ハ瑞穂丸ニ收容シ古仁屋港ニ避難  
ス、搭載物件白糖及航空兵器、「グリセリン」

(終)

(終)

我ニ填馬十、  
投下時約五、  
市東北端(五分)來襲機一、  
九日一時四十分第一號  
尚武隊第一宛報  
尚武部着八、  
謀謀要一  
長出付。